

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社エスラインギフ川口支店	階数	地上2階
建設地	埼玉県川口市	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条区域内	平均居住人員	75 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年7月 予定	評価の実施日	2019年10月3日
敷地面積	7,480 m ²	作成者	浅野 文昭
建築面積	4,845 m ²	確認日	2019年10月3日
延床面積	5,530 m ²	確認者	山中 幹根



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.6

3 設計上の配慮事項		
総合	外部は単純な建物形状とし、景観を損なわないようにした。事務所内部は設備等の更新がしやすいようにOAフロアとした。	その他 0
Q1 室内環境	F☆☆☆☆の建材を使用し、換気面積も床面積の1/20以上確保出来るような開口部とした。	Q3 室外環境(敷地内) 建物形状を単純にすることで周囲への調和を考慮した。また、色彩については派手な色を極力減らし周囲との調和を考慮した。
LR1 エネルギー	モデル建物法によりBPI _m = 0.65、BEI _m = 0.66となり1以下としている。	LR3 敷地外環境 敷地内に駐車場を確保することで、路上駐車をなくすように考慮した。
Q2 サービス性能	執務空間としては十分な広さを確保し、天井高さも事務所部分で2.7m以上確保することで開放感をだした。	
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含む建材は使用しない。	

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質)、**L: Load** (建築物の環境負荷)、**LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性)、**BEE: Built Environment Efficiency** (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
株式会社エスラインギフ川口支店

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
0 建築物の環境品質									2.6
Q1 室内環境			0.32		-				2.5
1 音環境		2.2	0.15		-				2.2
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40		-				
1.2 遮音		2.2	0.40		-				
1 開口部遮音性能		3.0	0.60		-				
2 界壁遮音性能		1.0	0.40		-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-				
1.3 吸音		1.0	0.20		-				
2 温熱環境		2.0	0.35		-				2.0
2.1 室温制御		3.0	0.50		-				
1 室温		3.0	0.38		-				
2 外皮性能		3.0	0.25		-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-				
2.2 湿度制御		1.0	0.20		-				
2.3 空調方式		1.0	0.30		-				
3 光・視環境		3.0	0.25		-				3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.30		-				
1 昼光率		3.0	0.60		-				
2 方位別開口			-		-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40		-				
3.2 グレア対策		3.0	0.30		-				
1 昼光制御		3.0	1.00		-				
3.3 照度		3.0	0.15		-				
3.4 照明制御		3.0	0.25		-				
4 空気質環境		3.0	0.25		-				3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.50		-				
1 化学汚染物質		3.0	1.00		-				
4.2 換気		3.0	0.30		-				
1 換気量		3.0	0.33		-				
2 自然換気性能		3.0	0.33		-				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33		-				
4.3 運用管理		3.0	0.20		-				
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50		-				
2 喫煙の制御		3.0	0.50		-				
Q2 サービス性能			0.30		-				3.1
1 機能性		3.2	0.40		-				3.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40		-				
1 広さ・収納性		3.0	0.50		-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.50		-				
3 バリアフリー計画			-		-				
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30		-				
1 広さ感・景観	天井高さを2.7mとした。	4.0	0.33		-				
2 リフレッシュスペース	休憩室を広めに設け、自販機を設置した。	5.0	0.33		-				
3 内装計画		1.0	0.33		-				
1.3 維持管理		3.5	0.30		-				
1 維持管理に配慮した設計	改修のしやすい材料を選定。	4.0	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保	各階に清掃設備を設けた。	3.0	0.50		-				
2 耐用性・信頼性		2.7	0.30		-				2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
2.4 信頼性		1.6	0.20		-				
1 空調・換気設備		1.0	0.20		-				
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20		-				
3 電気設備		1.0	0.20		-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-				
5 通信・情報設備		1.0	0.20		-				

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高を高くし改修しやすいようにした。	5.0	1.00	-	-	
2	空間の形状・自由さ		-	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			2.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.38	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	-	1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		外壁内に断熱材を設けた。	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		トップライトを設け自然光を取り入れた。	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.66	4.4	0.50	-	-	4.4
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.4
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60	-	-	2.4
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	
3	冷媒		3.0	1.00	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.6
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2 81%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			2.1	0.33	-	-	2.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場をとり路上駐車抑制に努めた。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.1	0.33	-	-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート

使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	株式会社エスラインギフ川口支店	BEE	0.9	BEEランク
------	-----------------	-----	-----	--------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO ₂ の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.7	+	1.6	= 5.3	
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO₂の削減		スコア平均	3.7
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR 3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.7
< 配慮した内容を記述 > 敷地内に駐車場を確保することで、路上駐車をなくすように考慮した。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	1.6
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q 3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q 3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR 3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	1.0
< 配慮した内容を記述 > 緑化面積を敷地面積の15%以上確保した。また、屋上緑化や壁面緑化などの様々な緑化方法を採用した。			

: 入力欄